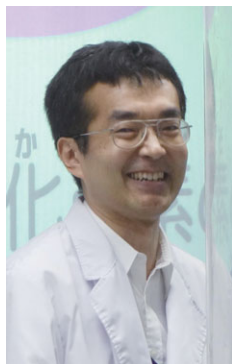


学芸員の活動



江越 航(天文担当学芸員)

科学館では太陽をはじめとする天文分野を担当しています。最近は、気象に関する普及活動にも取り組んでいます。(自分自身を含め)「天文・気象の普及教育を通じて、合理的思考を養う」ことが大きな目標です。

今回は、3/21に開催した日本天文学会講演会／大阪市立科学館スペシャルナイト「プラネタリウムと天文学の夕べ」を通して、学芸員の活動の一端を紹介したいと思います。ただの講演会のように見えるかもしれませんが、そこには学芸員ならではの、隠れたノウハウがあるのです。

Q. 開催のきっかけは？

A. 天文学者の研究発表の場として、天文学会というものがあります。2015年の春の天文学会は、大阪大学で開催されました。この際に、一般向けの普及講演会が行われるのですが、それを大阪市立科学館でやりたいという話をいただいたのがきっかけです。私たちも、プロの天文学者の方に話していただけるのは大変光栄な話で、すぐにお願しました。見落とされがちですが、これは結構重要なポイントです。科学館で開催する話をいただけたのは、日々、多くの市民の皆さんに利用いただいているおかげで、研究者の先生も「天文学の普及なら科学館」と思い至ってくれたからです。そうでなければ今回の講演会は、恐らく大学の講堂で行われていたことでしょう。

Q. 今回の講演会の特徴は？

A. なんと言っても、プラネタリウムと融合した講演会ということでしょうか。普通の講演会は、テレビのような四角い画面で行いますが、今回はせっかくプラネタリウムで行うのだから、それを生かした内容にしたいと思いました。といっても、全く関係ない映像を流すのでは意味がありませんから、講演会にふさわしいプラネタリウムのコンテンツを作成する必要があります。プラネタリウム番組の制作は多くのノウハウがあり、一朝一夕にできるものではありません。またその内容も、講演される先生方と話し合いながら考えていきます。そのため、天文学の知識にも精通している必要があります。

Q. その他にどんな苦労が？

A. 最初に講演会開催の話をいただいたのは、1年半も前の話で、その頃から準備を始めています。講演の内容を詰めるだけでなく、チラシやポスターの作成、各方面への広報依頼、参加者の受付システムの作成、配付資料の作成、問い合わせ対応、等々の事項を行わなければなりません。また、当日は短い時間に多くのお客さんが来られますから、各職員に役割分担をして、混乱のないように業務を実施してもらう必要があります。こうした館内の様々な調整も、学芸員の役割です。なんでもないように見えるかもしれませんが、でもこれは、科学館の総合力が発揮された講演会なのです。

化の振興」を使命として活動しています。